

初等地図学習教材 *Mapstart* シリーズにおける 系統性の分析的研究

志 村 喬*

(平成17年4月28日受付：平成17年6月15日受理)

要 旨

英国の初等地図学習教材として定評ある *Mapstart* シリーズ（全4巻）について、学習内容の系統性を分析した。その結果、地図学習内容の要素として8要素が抽出され、各巻・キーステージ毎の系統性が明らかになった。特に、「平面としての見え方」を入門期において非常に丁寧に扱うことが大きな特徴であり、その背後には地図学習に関する基礎研究（graphicacy 研究）の蓄積が示唆された。

KEY WORDS

geographical education	地理教育	map learning	地図学習
primary education	初等教育	<i>Mapstart</i>	マップスタート
plan view	平面としての見え方	United Kingdom	イギリス

1 はじめに

初等教育における地図学習改善を目指した著作が近年続けて刊行された。『社会科の基礎・基本 地図の学力』（寺本，2002）と『地理学習を面白くする授業アイデア』（吉田，2004）である。寺本は同書のまえがきで「地図や空間認識形成に関わる学習機会は著しく軽薄化している。入門期の地図学習といった系統的な扱いはまったく意識されなくなってしまった。」(p. 3) とはじめ、「地図学習をめぐる状況が大きく変わってきている中で、地図情報の増加は否めない事実となっている。(中略)このような状況の中で、21世紀に生きる子どもを育てるためにこれからの地図学習はどうあったらよいのか。ここに本書を著した最大の問題意識がある」(p. 4) と、現在の地理学習現場における地図学習の課題を表明している。初等学校教師である吉田の著作もほぼ同様な問題意識を基にしたもので、自ら行った地図を活用した地理学習実践の記録を使いながら、学習の系統化案を結論として提起している (pp. 107-113)。

この二著作を代表として地理教育界で地図学習をめぐる議論が活発化しつつある理由の一つは、現行学習指導要領で地図に関する技能が重視されているにもかかわらず、基礎研究が少なく体系化が図られていないことがある (志村，2002)。そこで本稿はこの課題の解決に資するべく、地図学習が重視されている英国で (志村，2004)、初等教育教材として定評ある地図学習テキストブック¹⁾ シリーズ *Mapstart* を分析し、初等地図学習内容の系統性を抽出することを目的とする。以下、第2章で分析対象とした *Mapstart* シリーズについて概説したのち、第

* 社会系教育講座

3章で各巻の内容を分析し、続く第4章で系統性を明らかにする。

2 Mapstart の概要

Mapstart とは、Simon Catling により編集されている初等学校向け地図学習テキストブックシリーズで全4巻から構成されている。Catling (1947年生) は、ロンドン大学修了後ロンドン市内の小学校での12年間の勤務等を経て、1984年から Oxford Brookes University (The Westminster Institute of Education) で初等教員養成に携わっている地理教育研究者であり、1992年から1993年にかけて地理学協会の会長を務めるなど英国地理教育界で活躍する研究者の一人である。研究領域の中心は、子どもの地図に関するスキルや地理認識であり、これら領域に関連した多くの教材・論考を発表している。*Mapstart* も氏による教材の1つであり、初等地理教育のハンドブックではこれ以上の初等地図学習教材を見つけるのが困難であるとして高く評価されている (Mackintosh, 1998, p. 144)。したがって、現在の英国初等地図教育の到達水準を知るための分析対象としては適切である。

Mapstart は1980年代に旧シリーズが作成されているが、今回分析対象とするのは新シリーズで、*Mapstart 1,3*が初版の1992年版、*Mapstart 2*が第2版の1993年版、*Mapstart 4*が第3版の1998年版である。全て1990年代の発行であり1991年版「ナショナル・カリキュラム地理」もしくは1995年版「ナショナル・カリキュラム地理」に対応して改訂された版といえる。各巻末にある教師用解説には所収の各内容が「ナショナル・カリキュラム地理」のどのキーステージ (KS) の「学習プログラム」に対応するか明記されている。そこで、これに基づき対応関係を示したのが表1である。

表1: *Mapstart* 各巻とキーステージ (KS) との関係

	KS1 (5-7歳)	KS2 (7-11歳)	KS3 (11-14歳)	KS4 (14-16歳)
<i>Mapstart 1</i> (1992)				
<i>Mapstart 2</i> (1993)				
<i>Mapstart 3</i> (1992)				
<i>Mapstart 4</i> (1998)				
<i>Key Geography</i> (1996)				
<i>Key Geography for GCSE</i> (1994)				

注: 各教材より筆者作成。

KS3・4の代表的教材である *Key Geography* シリーズも比較のため併記した。

表1には本シリーズとキーステージとの対応関係を分かりやすくするため、前期中等教育段階でのシェアが高い *Key Geography* シリーズ²⁾も同表中に示した。ここからは *Mapstart* シリーズがキーステージ2を中心とした初等教育段階を主対象としていることを先ず読み取ることができる。さらに同表からは、第1巻から第4巻に進むにつれてより高度な地図学習が行われるよう系統性をもって作成されていると推察される。そこで、それぞれの巻の内容をまとめながら構成を分析する³⁾。

3 *Mapstart* 各巻の内容構成

3.1 *Mapstart 1*

K S 1 から K S 2 に対応する全33ページの第1巻は、他の巻同様に全ページがカラー印刷であるが、写真や絵が豊富に使用されている。表紙は、本文中に掲載されている小学生が学校までの経路を描いた手書き地図であり、児童にとっては親しみやすいものになっている。ここからは、地図学習の最初のテキストブックとしての配慮がうかがえる。

表2 a は、目次にある全17項目の題名とその項目内容を示したもので、第1巻の内容構成を表す。ただし、目次では最後の教師用解説を除く17項目が6つの部分（類型）に分かれることが示されているにもかかわらず、この6部分に対する題名はなく、全体構成がわかりにくい。そこで、この6部分の内容を筆者が検討してつけた類型名を左の列に追加してある。「視点と見え方」、「位置」、「形と色」、「大小と遠近」、「経路」、「地球像と世界認識」がそれである。

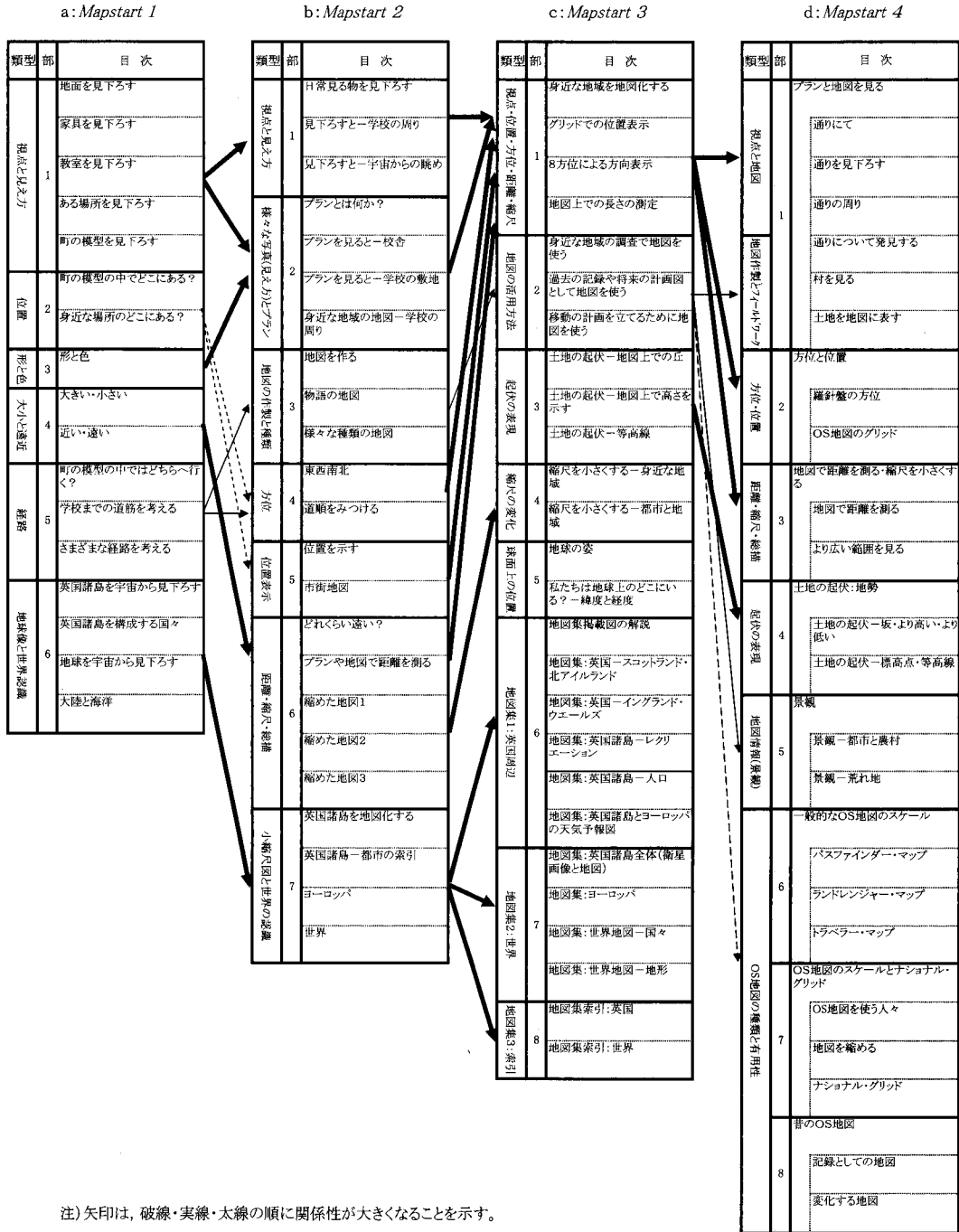
このようにして全体構成をみた場合、最初の「視点と見え方」は、地図学習の導入として位置づけられている本巻の大きな特徴である。そこで、ここでは第1部を中心に解説を加える。

第1部「視点と見え方」は、マンホールの蓋やドールハウスの家具など、児童自身が真上を含めさまざまな視点から見るができる対象物を扱うことで、視点の位置と見え方の違いを丁寧に解説するとともに、真上から見える形を描いた図がプラン（平面図）であると説明することから始まる。そしてそれを、教室、公園の鳥瞰図へ広げることで、事物の位置を示すものが地図であることに気づかせながら、大規模空間での視点の位置と見え方の理解につなげている。ここで注目されるのは、この段階で用いられているのは斜め上からの視点で描かれた鳥瞰図であり、真上からの視点にはまだなっていない点である。

大規模空間に対する真上からの視点と見え方は、続くロゴブロックで作製された市街地模型を使った第1部最後の項目で初めて扱われる。市街地模型は、都市を模倣したという点では地図の描く対象である大規模空間である一方、玩具として日頃使っている児童にとってはさまざまな視点から見るができる対象である。模型を斜め上から撮影した写真と、真上から撮影した写真を見開きで対照できるようにしたこの部分は、大規模空間における視点の位置と見え方の関係を理解させるためによく工夫されているといえる。

続く第2部は、第1部で慣れた上から見下ろす視点で、模型の中の物体や身近な地域の施設がどこにあるか確認する。さらに、第3部では上から見下ろす視点になると物体や事象はどのような形や色で示されるのか、第4部ではその視点で大小関係や遠近関係はどうなるのかを、模型や写真を使って理解させるようにしている。これら内容からは、第1部「視点と見え方」の理解を確実にさせることとともに、方位や縮尺の理解へ展開させるための配慮が見いだせる。なお、学校や公園施設までの経路を考える第5部からは地図の有用性を、視点を宇宙空間まで遠ざけた第6部からは球体としての地球像をそれぞれ学ぶことができる。

表2: Mapstart シリーズの内容構成



3.2 *Mapstart 2*

KS1からKS2向けの第2巻の内容は表2bのようにまとめることができる。表1で示したように、本巻はシリーズ全体の中でもKS2に対象を絞った教材であり、ほぼ日本の小学校社会科における地図学習段階に相当する。そこで、本巻については詳しく分析する。

全49ページからなる *Mapstart 2* は、教師用解説を除けば7部で構成されている。第1部は、視点の位置と事物の見え方の関係についての解説である。最初の「日常見る物を見下ろす」は路上の事物を見下ろすもので、子どもを含め人間が日常的に体験している視点からの眺めである。続く「見下ろすと－学校の周り」では飛行機からの視点に、「見下ろすと－宇宙からの眺め」では人工衛星からの視点へと変化させながら、撮影された写真・画像と地図を比較させていく。

第2部は、真上からの視点での見え方を平面図にしたものがプランであることを確実に理解させる部分である。最初の「プランとは何か？」は、教室入り口から教室の様子を撮影した写真（児童がいつも教室に入るときの視点に相当する見え方）と、教室の様子を立体模型で作製しそれを真上から撮影した写真とが提示され、入り口からの写真では教室の全ての事物が写らないことに気づかせる。そして、真上から撮影した写真のように事物のレイアウトを記号や色を使いながら描いた図がプランであることを理解させる。続く「プランを見ると－校舎」は、校舎の斜め空中写真・垂直写真と校舎内で調べた教室配置図（白黒）を比較し、配置図には写真に写らない情報が示されていることに気づかせている。さらに白黒の教室配置図を用途別に着色することで読みやすいプランになることを示している。「プランを見ると－学校の敷地」では、児童の視点から見える敷地に在る建造物の写真（横写真）を交えながら、敷地範囲を斜め空中写真・垂直写真・プランで読み解き、最後の「身近な地域の地図－学校の周り」に続けている。これは、学校周辺の数ブロック範囲の斜め空中写真と垂直写真、そして地図（map）と題された同範囲・同縮小率の図を比較して読み解くもので、地図という語が初めて使用されていることが注目される。

このように第2部では、写真では示せないものをプランは表示できることに気づかせながら、対象範囲を拡大して身近な地域の地図へ導いており、本書での地図概念の導入といえる。この過程では、斜め空中写真、垂直写真、児童の目線での写真を多用し、児童の視点を含め様々な視点の位置とその見え方に十分配慮していることが特徴である。

第3部は、学校周辺のアパート入居者向に便利な案内図を作製する「地図を作る」、物語の舞台を描いた絵と地図の比較により、視点が真上ではないため絵には描かれていない事象があることが分かる「物語の地図」、絵図・標識・新聞・観光絵はがきの地図情報を読み取る「様々な種類の地図」の3項から構成されており、地図の有用性と日常生活の様々な場面で多くの地図が活用されていることに気づかせる内容になっている。

第4部は方位に関する部分で、8方位を使って地図上で道路や地区の位置関係を説明したり道順をなぞる課題がだされている。この箇所以降の地図には必ず方位盤が付されるようになっており、この部分で8方位の使用を確実に身に付けさせようとしている。第5部は、位置表示に関してであり、グリッド座標での位置表示方法のみならず、街路名を記載した英国で一般的な市街地図の使用法も解説している。

第6部は縮尺と総描に関する5項から構成されている。第1項「どれくらい遠い？」は1/50の庭のプランとそれに添えられているスケールバーで庭に配置されているベンチの長さを測る事からはじまり、その方法を同縮尺で描かれた教室のプランでも応用してみることで、スケー

ルバーを使った距離の測り方を学習する。ここではまだ、細長い紙片を対象物（ベンチ等）に添えて長さをメモし、その紙片をスケールバーに添える方法が解説されるだけであり、その他の方法は紹介されていないとともに縮尺比も記述されていない。次項「プランや地図で距離を測る」に進んでから、校舎内のプラン（1/500）に描かれた教室の一辺及びスケールバーに、紙片に代えて定規を当てて距離を測る方法が紹介され、その解説中でプラン上の1 cmが実際には5 mにあたるという縮尺比の説明がなされる。さらに、学校の縮尺比を1/800に変えた学校敷地のプランでそれを応用し、プラン・地図上での距離の測り方を理解させるとともに、縮尺比の概念を確認させる。また、この学校敷地のプランには方位盤も添えられており、次項以降の地図への連続性がみられる。

第3項「縮めた地図1」では、学校周辺の1/5000の地図と1/1万の地図がグリッド入りで記載され、グリッドで位置が特定される建物間の距離を、縮尺比・スケールバー・定規を活用しながら測定することとなる。また、両図に描かれた校舎の輪郭の違いから、より縮めた1/1万の地図では総描がおこることに気づかせるとともに、凡例の利便性が説かれている。そして第4項「縮めた地図2」では学校を中心とした1/2.5万、1/10万、1/25万の地図が、第5項「縮めた地図3」では同様な1/100万、1/400万の地図が掲載され、それら地図に描かれている範囲・総描・凡例の変化を理解させている。最後の1/400万地図では、イングランド南部からウエールズ全域が含まれ主要都市名も記されていることから、グリッドを活用して都市名の索引を作成する作業が課されている。また、英国諸島全体の衛星写真も同縮尺で示され、対比できるようになっている。

この第6部の系統性をみると、学校の位置を中心に縮尺を段階的に小さくすることで、縮尺と総描という地図の基本を学習させ、小縮尺の地図を読めるようにしているといえる。この縮尺変化の際、最初はスケールバーを中心にし、紙片を使った測定から定規を使った測定と発展させることで縮尺比の概念へ結びつけている点、添付の定規の絵における1 cm刻みの目盛り（実寸）がスケールバーの区切りの良い距離（5 m、8 m、50 m、100 m）になるよう縮尺がそれぞれ定められている点には学習者への配慮がみられる。

最後の第7部は、1/400万英国諸島図にあたる「英国諸島を地図化する」「英国諸島－都市の索引」、ヨーロッパ州の衛星写真と政治区画図である「ヨーロッパ」、世界全図と2つの半球図が掲載された「世界」から構成されている。全体を通して、英国諸島に比重をおきつつ地図を活用しながら掲載地域を大観する内容であり、「ナショナル・カリキュラム地理」KS2の地誌的内容との対応関係が認められる。

3.3 Mapstart 3

KS2からKS3を対象にした第3巻の内容は表2 cにまとめた。全49ページからなるMapstart 3は教師用解説を除けば8部で構成されている。

第1部「視点・位置・方位・距離・縮尺」は、ほとんどがMapstart 2までで扱われている内容である。ここで扱われている内容は、第2部以降の学習の前提となるものであり、本巻がKS2～KS3対応であることをふまえると、KS2における地図技能の基礎を簡潔にまとめているととらえられる。

第2部「地図の活用方法」は、地域調査での地図の使用法（ベースマップへの情報の記入、情報の整理と地図化）のみならず、都市の再開発計画での地図活用や、路線図の読み方を解説

し、地図が地理学習の場面にとどまらず社会の中で役立っていることに気づかせる内容である。このような地図の実用性・有用性を、前半の部分で扱っているのは、本巻の特徴といえる。

第3部は、土地の起伏の表現方法についてである。最終的に等高線の理解を目指す内容で、日本では指導が難しいとされている部分である。本巻では、鳥瞰図による対象地域の起伏概要の感覚的理解→絵記号での起伏表現→ケバでの起伏表現→陰影での起伏表現→景観写真と段彩→標高点と等高線段彩図へと段階を追うことで学習させようとしている。

第4部は縮尺の変化についてであり、OS 地図の縮尺を変えながら縮尺変化に伴う範囲や表現方法の違いを理解させている。なお、ここでは OS 地図自体については深入りしていない一方、6桁グリッドによる位置表示は丁寧に解説していることが注目される。続く第5部は、さらに縮尺を小さくして地球全体の地図や球面上の位置表示に関する部分である。ここでは最初に地球及び地球儀の写真や半球図と、世界全図とを比較しており、平面である世界全図には歪みが生じることを実感させるような配慮がみられる。また、英国地理教育ではしばしば用いられるペーターズ世界地図が、メルカトル図法による世界地図とともに紹介されていることは注目してよいであろう。後半は、緯線・経線の解説及び緯度・経度による位置表示方法の解説である。

第6部は、atlas maps と題されている英国周辺と世界の地図、そしてその索引からなっており地図帳と見なせる部分である⁴⁾。ここでは、土地利用を示した環境図を主題図の例として採用し、景観写真と組み合わせ読図方法を説明していること、レクリエーション資源分布図、人口分布図のみならず天気図も掲載していること、衛星写真や地勢図では政治的な情報は読み取れず主題図が必要なことを解説していることが特徴である。

これら内容からすると、*Map Start 3* は、KS 2 段階における地図技能を示した *Mapstart 2* の内容を基礎にし、より発展的な学習を目指しているといえる。また、最後に地図集を配置することからは、地理的技能のみならず地誌的な学習内容にも配慮している。

3.4 *Mapstart 4*

Mapstart 4 も KS 2 から KS 3 を対象にしているが、OS 地図に関する技能に焦点をあてた巻である。全41ページにわたる内容の構成は表2 d に示した。教師用解説を除けば全体は8部分から構成されており、それぞれの部分の表題が第3巻までとは異なり目次に明記されている⁵⁾。

第1部「プランと地図をみる」、第2部「方位と位置」、第3部「地図で距離を測る・縮尺を小さくする」、第4部「土地の起伏・地勢」、第5部「景観」の内容は、*Mapstart 1, 2, 3* で扱ってきた内容を OS 地形図に即して再構成したものである。したがって、視点の位置と見え方の関係の重視、大縮尺のプランや地図及び空中写真の活用は第3巻までと同じである。

これに対し第6部以降は、OS 地図の独自性に焦点をあてた内容である。「一般的な OS 地図のスケール」は、OS 地図を代表する1/2.5万パスファインダー・マップ、1/5万ランドレンジャー・マップ、1/25万トラベラー・マップそれぞれについて、実寸の地図と凡例を掲載・解説している。これら3種類の地図はそれぞれ、ウォーキングや散策、徒歩移動を含む旅行、自動車等の交通機関を利用した旅行にほぼ対応しており、地図の実用性に配慮した説明である。第7部「OS 地図のスケールとナショナル・グリッド」は、大縮尺図である1/1,250を使う都市計画家からはじまり、各縮尺の OS 地図を使っている人々の写真が地図とともに掲載され、地図の有用性・

実用性に気づかせている。また、地図の縮尺と全英の位置表示を可能にするナショナル・グリッドを解説し、OS 地図が国土の基本図であることを認識させている。第 8 部「昔の OS 地図」では、19 世紀初めから営々と OS 地図が国家的事業として作製されてきたこと、したがって OS 地図が過去を知り将来を展望する貴重な資料であることが説かれている。

以上のような第 4 巻は、OS 地図に学習対象を絞り込んで OS 地図に関する技能の基礎を扱うとともに、その有用性について各所で触れているのが特徴である。なお、OS 地図に特化しているため英国地方図や世界全図は扱われていない。この点からは、本巻は単独での使用よりも、その他の巻との併用が想定されていると考えられる。

4 Mapstart シリーズの系統性

Mapstart シリーズ各巻の構成をまとめた表 2 には、各巻の内容が次巻の内容へどのように展開しているか 3 章の分析をふまえて矢印で示してある。単位は各巻の部（類型）であり、矢印の太さは関係性の大小を表している。ここからは、第 1 巻から第 3 巻まで順次内容が高度化しており Mapstart 3 の第 1 部にそれまでの地図学習の内容がほぼ収束すること、Mapstart 4 は OS 地図に焦点をあてた特別な巻であり、Mapstart 3 で扱われている内容が OS 地図に即して再構成されていることが明瞭に読み取れる。以下では、この関係性を地図学習を構成する要素毎にまとめることで、学習内容の系統性を明らかにしたい。

地図学習を構成する要素として Mapstart 各巻冒頭には、「ナショナル・カリキュラム地理」に沿った地図学習を構成する主要要素として次の 6 要素が提示されている。

- ・平面としての見え方 (plan view)：地点を垂直に見下ろした時の見え方で、地図の視点
- ・位置 (location)：対象としている事象はどこにあり、どう配置しているか
- ・方向・方位 (direction)：対象としている事象の位置の関係
- ・記号 (symbols)：図・文字・数字からなる地図の言語
- ・縮尺 (scale)：比率・縮小・大きさ・距離・計測の考え方
- ・総描 (selection and purpose)：特定の内容が選択されて地図に表現された理由と方法

このうち、縮尺・総描は、Mapstart 2 第 6 部の分析で「距離測定→縮尺→総描」といった指導過程がみられたため、教材内容分析である本稿では一要素としてまとめてとらえ、表記順も学習過程に沿って「距離・縮尺・総描」とする。さらに、表 2 からは、この 5 要素に含まれない学習内容要素として、土地の起伏など 3 次的な高さを表す「等高線」、自分自身をはじめ多くの人々が様々な地図を活用して地図が社会的に有用であることを解説する「社会での地図の活用」、球体としての世界像を持たせながら世界認識を図る「地球像と世界認識」の 3 要素が見いだせ、全部で 8 要素を抽出することが出来る。

これら 8 要素別に各巻の内容を整理したものが表 3 である。本表からは、Mapstart シリーズにおける系統性の特徴が次のように理解される。1 つめは、「平面としての見え方」「位置」「社会での地図の活用」「地球像と世界認識」が、Mapstart 1 から継続して丁寧に扱われていることである。この中でも「平面としての見え方」は、第 3 章の分析で明らかになったように地図学習導入用の Mapstart 1・2 で非常に詳細に扱われており、Mapstart 3 でも復習から始まっていることは本シリーズ最大の特徴である。

表3：Mapstart シリーズでの地図学習内容要素の系統性

要素	<i>Mapstart 1</i>	<i>Mapstart 2</i>	<i>Mapstart 3</i>	<i>Mapstart 4</i>
平面としての見え方	市街地模型の見え方	プラン、地図		
位置	(位置関係)	座標・道路名での表示	緯度・経度	ナショナルグリッド
方向・方位		4方位、8方位		
記号		縮小による記号化	OS 地図の例	
距離・縮尺・総描		スケールバーと距離	OS 地図の例	
等高線			1/10000OS 地図	
社会での地図の活用	道順（通学路など）	日常生活の各種地図	地域調査、都市計画	過去の OS 地図の活用
地球像と世界認識	半球の写真・画像		世界全図の投影法	

Mapstart 各巻より筆者作成。

注) 網掛けはその要素が扱われていることを示し、特徴的な内容は記入した。

2つめは、「方向・方位」「記号」「距離・縮尺・総描」は、「平面としての見え方」が確実に身に付いた *Mapstart 2* の段階、すなわちキーステージ2段階の学習内容として設定されていることである。地図 (map) との用語が明示的に説明されるのもこの段階である。

3つめは、「等高線」は *Mapstart 3* の内容であることからキーステージ2後半での学習と想定されるとともに、そこでは大縮尺 OS 地図の使用がみられることである。なお、この段階では、緯度・経度による地球上の位置表示、球体である地球を平面に描く投影法の問題、地図帳も扱われており、地球像・世界像の認識の比重が他の巻に比べ高いといえる。

4つめは、OS 地形図学習用の *Mapstart 4* は、*Mapstart 1* から3にみられる系統性が OS 地図に適用して再構成されているだけでなく、OS 地図の種類とその有用性が大きく取り上げられているという特徴である。

5 おわりに

Mapstart の内容を分析した結果、初等教育における地図学習の導入では、地図の視点である真上からの見え方が非常に丁寧に扱われていることをはじめ、表3にまとめたような系統性が明らかになった。児童の目線から撮影された写真・斜め上空からの空中写真・垂直写真といった様々な視点からの写真の多用、ロゴブロックで作製した都市模型の積極的な使用、大縮尺の鳥瞰図や地図の使用など、シリーズ各巻に見られる具体的内容は、この系統性にそって配列されている。

本稿で分析した *Mapstart* シリーズが、地理・地図学習が盛んな英国で高い評価を得ている大きな理由は、この系統性が初等地図学習では適切であると共通に認識されているからである (Mackintosh, 1998)。この共通認識の背後には *Mapstart* シリーズを編集している Catling らにより展開されてきた地図学習に関する基礎研究 (graphicacy 研究) があり、この基礎研究をもとに *Mapstart* シリーズが開発されたと考えられるが、その検討は今後の課題としたい。

本研究は、平成15-16(2003-2004)年度科学研究費補助金(基盤研究(c))(1)課題番号15500680「地図嫌いの発生要因の解明と地理教育による改善方法の検討」(研究代表者：志村喬)による研究成果の一部である。

注

- 1) 志村 (2003a) で解説したように、英国におけるテキストブックは日本の教科書と異なり幅広い教材概念である。
- 2) 同シリーズにおける地図に関する内容は志村 (2003b, pp. 153-154) に紹介した。
- 3) *Mapstart* シリーズの内容の詳細は志村 (2005) に紹介している。また、飯塚 (2002) も4巻を中心に研究を進めている。
- 4) 内容的には、1991年版カリキュラムで地誌的学習内容がK S 3段階を中心に詳細に規定されていたことに対応している。
- 5) この巻は、初版が1987年、第2版が1989年、第3版が1998年に刊行されている。分析対象としたのは、1995年の第1次カリキュラム改訂後の第3版である。他の巻は、第1次カリキュラム改訂前の初版を増刷しており、この改訂の有無が題名の明記に関連しているかもしれない。

引用文献

- 飯塚 耕治 (2002) : イギリス初等地理科における地図指導 - 1990年代後半の実践事例を中心に - . 新地理, **50**(2), pp.1-12.
- 志村 喬 (2002) : 地理的技能の体系化. 地理, **47**(8), pp.29-35.
- 志村 喬 (2003a) : イギリスにおける地理テキストブック研究の進展. 上越社会研究, **18**, pp.3-10.
- 志村 喬 (2003b) : イギリスにおける地理教育の動向と課題. 村山祐司編『21世紀の地理 - 新しい地理教育』, 朝倉書店, pp.145-160.
- 志村 喬 (2004) : 英国『ナショナル・カリキュラム (2000年版)』開発とジオグラフィカル・スキル. 地理科学, **59**, pp.149-156.
- 志村 喬 (2005) : 英国地理教育における地図に関する技能と学習 - 初等教育におけるカリキュラムと教材から - . 志村喬編『地図嫌いの発生要因の解明と地理教育による改善方法の検討』(2003-2004年度科学研究費補助金報告書), pp.55-84
- 寺本 潔 (2002) : 『社会科の基礎・基本 地図の学力』, 明治図書, 155p.
- 吉田 和義 (2004) : 『地理学習を面白くする授業アイデア』, 116p.
- Catling, S. (1992) : *Mapstart Book 1,3*. Collins/Longman, 33p., 49p.
- Catling, S. (1993) : *Mapstart Book 2*. Collins/Longman, 49p.
- Catling, S. (1998) : *Mapstart Book 4 : An introduction to Ordnance Survey Maps*. Collins/Longman, 41p.
- Mackintosh, M. (1998) : Photographs, diagrams and maps: understanding and using them. In Carter, R. ed. *Handbook of Primary Geography*. Geographical Association, Sheffield, pp.133-151.

The study of primary map learning textbook *Mapstart* series in U.K.

Takashi, SHIMURA*

ABSTRACT

This study examined the most acknowledged primary map learning textbook series *Mapstart* by the content scope and sequence. As the result, eight key map learning elements and the sequence in the series have found. In *Mapstart* series, plan view is treated carefully on introductory phase of map learning. This suggest that there are graphicacy researches in United Kingdom.

* Division of Social Studies, Department of Humanities and Social Studies